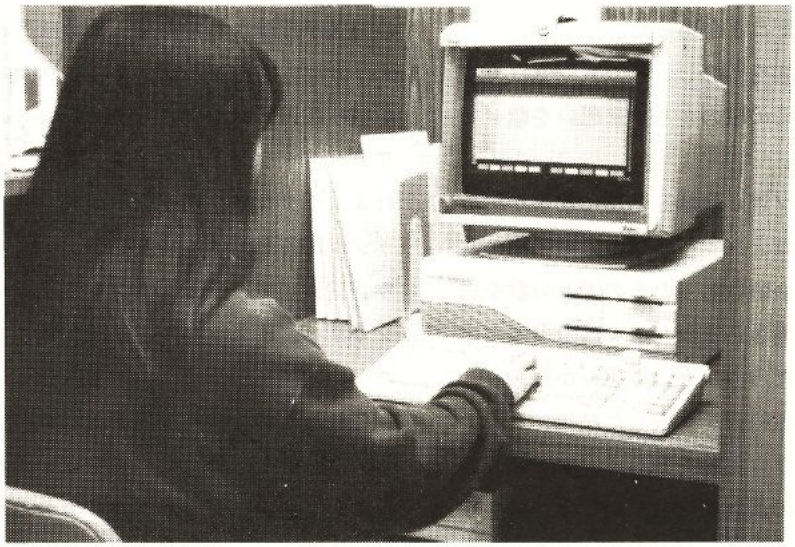
みすず No. 21
1994. 12
上田女子短期大学附属図書館報



検索用端末機の増設

――― 長野大学図書館とのオンライン検索実現 ―――

本年９月に利用者用検索端末機が増設され、これまで業務用と兼用でしたが、いつでも使用できるようになりましたので、利用して下さい。

平成元年より導入しましたコンピュータシステムは、5年半の年月をかけ、全データの入力も完了し、端末機も４台になる等、ほぼ完成しました。

今、図書館界の動向は、各組織内のネットワーク（ＬＡＮ）はもとより、他館とのネットワーク（ＷＡＮ－Wide Area Netwark）に向けて進んでいます。

今後は、県内の短大同志はもちろん、公共図書館とのネットワークがはかられる時がまもなく到来するでしょう。

時あたかも隣りの長野大学図書館では、10月にコンピュータシステムが完成しました。全蔵書約10万冊のデータベース化が実現したそうです。そして喜ばしいことに、長野大学図書館の御好意で、本学の端末から通信回線を通して検索させてもらえることになりました。

検索利用に当っては係に相談して下さい。本学の検索、そしてネットワーク利用、情報化時代に向けて積極的な利用を望んでやみません。

夢見る頃に教わりし歌

北村恵子

ある音楽研究会で、北海道放送のディレクター溝口博史氏が世界16ケ国に取材して制作したテレビドキュメンタリー「夢見る頃に教わりし歌」を取り上げたことがあった。

ここでその内容を紹介し、いつも何気なく歌っている外国からの歌のルーツに思いを駆せてみたいと思う。

多民族国家のソ連が崩壊し各地に紛争が起こった時も、チェコとスロバキアの分離独立の時も、自分が小さい頃教わったその国々の歌を思い出し、戦禍に巻き込まれた人々は今どんな歌を歌っているのだろうかという思いが膨らみ、世界各地の音楽教科書を調査した結果、ロシアの子供達はアメリカ民謡を知らず、アメリカの子供達はロシアの民謡を知らないことが分かり、それが溝口氏をそのテレビドキュメンタリーの制作に駆り立てていったということであった。

そういう私も、チェコスロバキアがチェコとスロバキアに分離すると、チェコスロバキア民謡の「おお牧場はみどり」はどっちの国の歌になるのだろうかと、心配したものである。（私はこの類の心配をたびたびするが、身近な例では、御岳山が爆発した時、県歌信濃の国の　～浅間はことに活火山～　の歌詞はどう直せばいいのか、真剣に悩んだことがある）

さて、このような調査を、音楽教育にはあまり縁のないテレビ局のディレクターがしたことに、音楽教師としてショックを受けた。

氏の調査によれば、日本の小学校の音楽教科書を全部調査した結果、凡そ世界23の国と地域の民謡が採用されており、曲数はドイツ32、アメリカ23、フランス15、チェコスロバキア12、イギリス10、ロシア８、メキシコ６、オーストリア、ポーランド、スイス、スペインがそれぞれ３、イタリア、西インド諸島、ボリビア、ブラジルが各２、アイルランド、ノルウェー、スカンジナビア、ラップランド、デンマーク、ハンガリー、イスラエル、中国が各１であったという。

これだけ多くの外国曲を義務教育で教えている国は、日本以外には恐らくないだろうが、それにしても、アジアやアフリカの歌が皆無なことや、ヨーロッパに偏り過ぎているのは問題であろう。この点でも溝口氏は「明治政府が西洋音楽を輸入して作った唱歌集と、基本的に何ら変わっていないのではないだろうか」と、厳しく指摘している。

さて氏は、単に外国曲と表示された曲の中から「静かな湖畔」を選び、そのルーツを求めようと南ドイツ、オーストリア辺りに狙いを定め取材したが、ほとんどの人が知らないという中で、どうやら「壁の上の南京虫」の前半と「灰色のロバ」の後半が混在しているのではないかということを突き止めた。「小さな灰色のロバ」

◇◇◇　目　次　◇◇◇

検索用端末機の増設……1
夢見る頃に教わりし歌……北村恵子……2
岸上大作のこと……長田真紀……4
あなたへの一冊……井出賢治……6
「児童文化研究大会」へ参加して　須佐亜由美……7
絵本のすすめ……濱　陽子……8
読　書……広田美穂……9
〔図書館ガイド〕……10

は、口承で歌われてきた南ドイツの極めて古い民謡ということだが、私がその楽譜を見ても、最後のロバの鳴き声の“イア　イア　イアイアイア”という部分が「静かな湖畔」の最後のカッコウの鳴き声の“カッコウ　カッコウ　カッコウカッコウカッコウ”とそっくりの輪唱曲だと推測できる。この歌を日本の歌にした時、誰がロバの鳴き声をカッコウに置き換えてしまったのだろうか。

次に、ドイツ民謡の輪唱曲“蛙の歌”は、ドイツの小学校では誰も知らないという事実に出くわし、氏は面食らったそうである。さらに「山の音楽家」の曲も、「きれいなメロディーだけれど、私達は知らない」と苦笑いされてしまったという。日本では皆が知っているピアノ教則本の「バイエル」を、今のドイツ人達は誰も知らないと同じなのだろう。

溝口氏はロンドンでも同じような経験をしたという。イギリス民謡の“丘を越え行こうよ～”で始まる「ピクニック」の曲を、小学校の音楽教師に聴いてもらった所、「52年もイギリスに住んでいるけど、一度も聴いたことのない曲だ」と、おどけてみせたという。

明治初期に導入された外国の歌や音楽が、本国ではとうに忘れ去られたものでさえ未だに歌い継がれている場合も確かにある。そして、永い間歌っていると、それが昔から日本にあった歌のような気がしてくるから不思議だ。

私は実際、アメリカに学生を引率して行った時に「むすんでひらいて」を日本の手遊びとして現地の保育園で教えてしまった失敗がある。後で気が付き学生達と大笑いしてしまったが、1世紀もたつと、それらはもう日本の歌になってしまったといえるのかもしれない。日本人は歌の出典については意外と無頓着のようだ。そして、これは歌だけの問題でもないかもしれない。

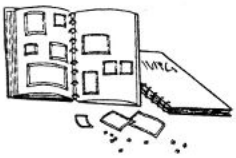
次に氏は、音楽の教科書が政治にまみれやすいことも指摘している。そういえば日本も例外ではなく、太平洋戦争開戦前夜、音楽の教科書から外国曲がすべて姿を消したが、社会主義体制下の東ドイツも、東西が統一されるまでは、学校で教える歌を政府に報告して許可を得なければならなかったという。ロシアでは、今まで遠ざけられていた自分達の民族の歌を取り戻すのに今必死の状態で、他の国の歌などまだまだということらしい。しかし、中国はちょっと違い、教科書に外国の曲が16ケ国確認できたという。中にはアメリカやロシアのものもあり、ルーマニア、ユーゴスラビア、エジプト、トリニダード・トバコ、そして日本の曲もあり、中国の子供達は「さくら」「春が来た」「四季の歌」「七つの子」「とんび」などを上手に歌えるという。韓国では、今まで日本語の歌は禁止されてきたが、テレビの報道などを見ていると、ここへきて見直しがされる気配もある。

溝口氏が制作したこのテレビドキュメンタリーは、二つの賞を受賞した。企画から2年のこの作品の制作費用は、その筋の人に聞いた所2～3千万円はかかるらしいとのこと。これでは貧乏教師風情が研究課題にできる訳がない。

ともあれ、せっかく外国の歌を教えるならば、その国で親しまれている歌やその民族文化を代表する歌を採用すべきであるし、その地域や歴史にも触れ、世界に対する広い視野を育むことが必要ではないかと思うのだが。

世界各地の情報が入手できる時代になってきたが、もしかしたら、日本では既に忘れ去られた日本の歌が、どこかの国で歌い継がれていることだってあるかもしれない。そう考えると、人間とは何て不思議で夢のある存在なのかと、一応思えてくるのだが、どうなのだろうか？

（幼児教育科　教授）



岸上大作のこと

長　田　真　紀

≪平成３年６月２日。午後11時、渋谷発の深夜バスに乗り込む。翌朝８時姫路に到着。姫路駅から播但線にて約30分、福崎駅着。≫

これは、岸上大作の生地と墓所をこの目で確かめようと、兵庫県の福崎へ一人で行った時のメモである。

岸上大作——昭和35年12月５日、國學院大学３年の21歳の若さで縊死した学生歌人である。

昭和14年、兵庫県神崎郡福崎町西田原（当時田原村井ノ口）に出生。運送店の運転手をしていた父は満州に召集され、敗戦後復員するが、帰国直後横須賀で戦病死している。岸上、６歳の時である。

戦死公報・父の名に誤字ひとつ　母にはじめてその無名の死

白き位牌持てと言われて泣きわめきし父葬る日の吾は一年生

岸上の少年時代は貧しく、そして暗い。

同居していた父方の祖父が生花で弟子をとり、母が昼間は縄屋で縄をない、夜は内職をすることで生計を立てた。

残業の手当に母がもらい来し十円のパンにつけるわらくず

聴きたいが母の寝息の高ければガマンしてねる夜の名曲に

さらに岸上は、母と祖父との間に関係があったことをにおわせる歌も残している。

喰うための母の不貞と知るゆえに少年期暗らかりき父逝きしより

めじろの瞳祖父に飼われて湿りやすくつねに映せり戦後の家を

県立福崎高校入学後、短歌結社「まひる野」に入会。それまで、詩、小説、俳句等に手を広げていたのを、短歌ひとつに絞ることを決意する。当時の日記には「文学として短歌と対決することはいつも注意しておらねばならぬ。君の趣味はと問われた時、「短歌です」と答えるような短歌をもう捨て得たであろうか。もっときびしく、対決しなければならないのだ。短歌をもうぼくの趣味と考えるような浅いものであってはいかん。自分を発展させ、無限に続くいのちの一秒の瞬間をとらえてそれを自分の分身として……」と記している。短歌に懸ける意気込みと情熱が十分窺えるところである。

高校卒業後は家庭の事情から就職を考えるが、大学入学と同時に奨学金を受け取ることのできる育英会の予約採用が決まり、進学することにする。ちなみに、２歳下の妹は中学校卒業後、姫路の、やまとやしき百貨店に就職している。

デパートの食堂給仕の職を得し妹今宵美しくみゆ

昭和33年、國學院大学文学部国文科に入学。同時に、同校短歌研究会に入会。以後、「まひる野」はもとより、「國學院短歌」「れいめい」「汎」等に精力的に歌を発表していく。

月額3,000円の四畳半の部屋に住み、奨学金のほかは母から送られる6,000円程度の仕送りと、アルバイトで時々稼ぐわずかな金でかろうじてしのぐ下宿生活。「東横デパートの会津観

光展で、湯のみと急須を買って来る。昼から夜にかけてずっと採点の仕事をしたが、その間、これでずっとお茶を飲んだ。机の上に急須と湯のみがある。大きな湯のみに一パイつぎこんで、チビリチビリやりながら仕事をする。これで、あと小さなマホウビンを買って来て、夜の静かさの中で飲んだらどんなに気持ちがいいだろうか。」「風呂。家の人がすんだアトの風呂。もう夜半すぎ。だけど風呂は深くて、あつい。じいんと身体につきぬけてゆく。」(以上「日記」より)岸上の暮らしはあまりにも倹ましい。それでも、ささやかではあるが学生であることの喜びを噛み締めている姿は、覚えず涙がにじむほどいじらしい。

口つけて水道の水飲みおりぬ母への手紙長かりし夜は

夜の卓に灯せばひとりのものとなり学問にわく喜びばかり

食パンの皮かたきまで喰いおりつ不意に湧くものかなしみならず

時代は、60年安保闘争のまっただなか。昭和35年6月、東大生の樺美智子が殺された日、岸上も抗議集会において警棒で頭を割られ1週間のケガをしている。

その半年後の12月、自らを死へと導く。9月には「意志表示」50首が短歌研究新人賞に推され、これからまさに岸上短歌が結実していこうとする矢先であった。「恋と革命」とに挫折したという21歳の生涯はあまりにも短かきに過ぎた。

海のこと言いてあがりし屋上に風に乱れる髪をみている

生きている不潔とむすぶたびに切れついに何本の手はなくすとも

私は夭折した文学者、特に自死した文学者にそれほど興味をもっているわけではない。それなのに、岸上のことだけは苛立たしさを覚えるほど気になってしかたなかった。

私がちょうど福崎を訪ねたのは、姫路市に姫路文学館がオープンして間もない時だった。そこには岸上の大きなコーナーが常設されているのに対して、一歩福崎に入ると、駅前の案内図や文学パンフレット等、全く岸上の名を認めることはできなかった。それでもどうにかして、西田原の地区をうろうろしていると、小高い山の中腹にその集落の墓を見つけ、岸上の墓も捜し当てることができた。友人たちの厚意でできたという墓は、21歳で死んでいった男の墓としてはすこぶる立派であった。墓石には岸上の代表作と見なされている次の歌が刻まれていた。

意志表示せまり声なきこゑを背にただ掌の中にマッチ擦るのみ

この歌を読むとき、いまだ自分自身を明確にしえない自分を、いつも同じところを逡巡している私をまざまざと見せつけられるような気になる。そして死んでもなお、この重い歌を背負わねばならない岸上の苦しい息づかいが，聞こえてくるような気がしてならない。

歿後34年。岸上大作は近年高等学校の国語の教科書にその歌が採られるなど、再び静かに読まれる人となった。

※引用については、『岸上大作全集』(思潮社 1980年10月新装第一刷）に拠った。(国文科　講師)

本学の先生の近刊書
・音楽表現の世界　北村恵子 著
樹芸書房　1,800円
・生徒指導と学校カウンセリング 1,800円
・児童・生徒の発達と学習　2,000円
ナカニシヤ出版
前田基成分担執筆

あなたへの一冊　1

若き日の心に残る一冊

—『憂鬱なる党派』　高橋和己 著—

井出賢次

読書の喜びや楽しみ（時には苦しみ）を知るようになってから随分長い年月を過ごしてきた。少年の頃から今日まで、その折々に感銘を受けた書物も多い。

自分の生き方や考え方を根底からゆるがすような衝撃を与えてくれた小説、自我の追求のきびしさや理想的な人間像を追体験させ、人間としての豊かな生きざまを如実に示してくれた作品など、読書によって得たすばらしい体験は、実生活から得たもの以上に私の人生航路を左右してきたともいえる。

特に戦後の文学は、同年齢に近い作家達によって書かれた作品でもあるので、私の人生とともに歩んできたともいえる。ここでは若い学生諸君にはなじみが薄いと思うが、私とほぼ同年齢の作家で、39歳の若さでこの世を去った高橋和巳の作品について述べてみたい。

◆　◆　◆

「中学生のころ敗戦にあってから、彼は自分の感覚を越えた理論体系や厖大な仮説を、そして権威ありげなものを一切信じなくなっていた。敗戦とそれがどのように関係するのかよく解らない。しかし、錯綜し複雑に入りまじっているものを目の前でたちまち整理してみせる精神の魔術は、彼に常に許し難い不誠実のように感じられた。それは才能に恵まれなかったからではなく、記憶以上のものとして今も彼を支配している或る経験のせいだった。あまりにも急激な価値変動を何度も経験しすぎたのだ。そして、あの閃光も彼の頭上にだけ花咲き散ったものではなかった。人々は同様に教育され、感激し、疑惑し、そして不意に崩れ去ったものだから」

少し長い引用になったが、これは高橋和巳の小説「憂鬱なる党派」の冒頭部分である。この作品は、あの焦土—つまり敗戦による廃墟と価値観の180度転換、無秩序と混乱の中で形成されたものである。この書き出しにはじまる作品を読んだ時の暗い思いは今も私の記憶の中に刻まれている。同世代に生まれ同様の経験をした私にとって、単に小説というより自己自身をその中に見る思いであった。

聖戦を疑わず、特攻隊の理想を信じていた少年の敗戦によるショック、既成の価値観の否定、戦後の混乱、人間精神の荒廃、新しい流れに対する違和感等、その生きる憂鬱な思いを、荒涼たる心を抱いてもがき苦しむ青年の心を描き出したものである。この小説は作者の学生時代の政治運動の経験をもとに戦後の学生運動の挫折を描いた作品であるが、それは作者自身の敗戦に伴う敗負の世界が基底にあって書かれたものである。

正義の戦さと信じ、殉国の精神に生き、潔よく散華するために猛訓練に明け暮れていた矢先に敗戦、復員後すべてのものに懐疑と不信の思いを抱きつつ生きていた私にとって、彼の描く作中人物の生き方や思考は、まさに私自身を投影させたように感じられ、「悲の器」にはじまり「散華」「邪宗門」等、次々とむさぼるように読んだ日の事は忘れ難い思い出である。14.5歳で敗戦を迎えた多くの少年の苦渋に満ちた思いが凝縮された作品ともいえよう。

◆　◆　◆

同時代に生きた作家の小説は、自らの人生と重なり合い、読書をとおしていつしか自己の考え方や生き方を身につけてきたように思われる。常に懐疑と人間不信の思いを抱き、魂の彷徨を続けた若き日の自分と当時読んだ小説への思いは、今も私の心の奥底に深くしみついている。

（国文科　教授）

「児童文化研究大会」に参加して

幼児教育科２年　須　佐　亜由美

今回の全体会の講師である寺村輝夫先生は、「こまったさんシリーズ」「ぼくは王さま」等の数々の有名な絵本の著者だということでとても楽しみにしていた。寺村先生の本は、ユーモアがあって、シャレが豊富な話だけれど、そういう所が他のと違っているからか、とても好きで、小学生の頃は、図書館で借りて、大体は読んだものだ。

絵本を書く人ってどういう人だろうと興味深くお話を聞いていて感じたことは、子どもの気持ちをよく知っていて、子どもの心を持ち続けているということだった。そこらへんは私達と似ているのではないだろうか。

旅先でのパンフレットと実際の景色の違いと、象の絵の描き順のお話をされた。写真なんていうのは撮りようで、実際みて「なぁんだ」ということもよくある。そんなものは、もの事の一角でしかなくて、本質まではなかなか見抜けない。象を描く時は、鼻から描くし、牙は描かないことが多い。私達のみることのできる動物園の象には牙がないし、象といえば長い鼻というイメージが出来上がってしまっているからだろう。しかし、そういう固定観念やイメージにまだとらわれていない子供は、純粋な目で、物事の本質を見抜くことができる。そしてそれを表現する絵や言葉や行動などは、大人から見て、奇妙だったりする事もある。その奥にあるものの本当の意味を見抜くのも保育者の力量だろう。

大人のいいと思う本を必ず子供も好むかというとそうでもない事もあるし、実習をしていて「どうして子供はこんな本を好むのだろう」と思うこともある。「ぼくは王様」「大きなかぶ」等、国語の授業で使われている話で、その意味を教師が読みとらせようとしていることについて、反対だとおっしゃっていたが、なるほどと思い、目が覚めた思いだった。本を読み、何を感じ、そこから何を学びとるかは、人によって違うのだ。本にはそんな無限のものが秘められている事に気づいた。

私自身、絵本が大好きだし、これからも子ども達にたくさんの本を読んであげようと思う。そして感性豊かな子供に育ってほしい。

分科会は、第三分科会に参加した。国際化の今、幼児教育の場での実態や、問題等の研究の発表であった。保育の現場に立ったら、必ずぶちあたるであろう問題だったので、興味深く聞いたが、実際に調査し、研究してまとめた資料をみて、まず県下の幼稚園・保育園に在籍している日本語以外の母語の幼児の数の多さや、言語・国の多様さに驚いた。時代の波にあわせ、保育も変化していくもので、それにあわせて保母も日々勉強して、対応していかなくてはならない。分科会の終わりに、卒業生の方、二人が意見をのべたが、その熱心な姿をみて、そう思った。来年からは、日本語教育の講座が設けられるそうだが、受講できる後輩をうらやましく思い、私もまだまだ多くの事を吸収したいと思う。

絵本のすすめ

幼児教育科２年　濱　陽子

家から歩いて十分くらいのところに、市立図書館がある。私は、小さい頃から、母と一緒に図書館へ行っていた。幼稚園に通っていた頃の私にとって図書館は、静かで広くて不思議な場所だった。普段は騒がしい私でも、図書館に入るとおとなしくなっていた。そして、絵本のコーナーに連れていかれ、自分の好きな本を三冊選ぶ。私は、たくさんある絵本の前でいつも迷ってばかりいた。絵本は、私にとって大好きなものだった。その中でも、いたずらっ子で元気のいい女の子が出てくるお話が好きだった。いたずらを繰り返す主人公と一緒になってドキドキしていた。

小学生になっても、図書館通いは続いていた。母だけでなく、弟二人も連れてである。自分の借りる本が決まった弟達は、好きな絵本や紙芝居をもって私のところへ来る。そして「お姉ちゃん読んで」と言い、ジュータンの広げてある所に座るのだ。私は、小さい頃から世話好きだったらしく、喜んで読んであげていた。弟達の選んだ絵本を読みながら、私自身も絵本の世界を楽しんでいた。ふと弟達の方を見てみると、弟達の横に知らない子どもが座っている。弟達と一緒に、私の読んでいる絵本を見ているのだ。まあいいか、と思い絵本を読み続けていると、続々と子ども達が集まり、最後には十人位の子ども達の前で読み聞かせをしていることが度々あった。弟はいつも「僕のお姉ちゃんだぞ。近づいてくるなよ。一緒に見るなよ。」と思ったそうである。私はこのように、読み聞かせをさせられたことで、小学生になっても絵本と親しんでいた。

短大に入学して、図書館に多くの絵本があることがわかった。やはり、大学は専門的なことを学ぶ場所だと思った。そして、なんとなく絵本のコーナーへ行ってみた。その中から、小さい頃に読んだ本をみつけてとてもなつかしい気持ちになった。読んでみると、ストーリーはすでにわかっているのに、新たな感動があった。また、初めて見た絵本を読んだ時には、素直に楽しむことができた。このように夢中になって絵本を読んだ後、もう一度読み返し「この展開はうまい。」などと思うこともあった。また、実習で幼稚園や保育園に行くと、子ども達にせがまれて、絵本を読むことがあった。子ども達に何度も読んだ絵本は、やはり楽しいものが多い。実習に行き、子ども達から教えてもらった「楽しい絵本」はたくさんあった。

今の若い人は、本を読まないと言われている。きっと、本を読むこと以外にやりたいことがたくさんあるからだろう。毎日が忙しく、時間的にも余裕がないこともあるだろう。しかし、ブームとなった「マディソン郡の橋」などは、読んだ人も多いかと思う。このことより、何かのきっかけがあれば若い人でも本を読むことはあると思う。また、絵本は文も短いので、普通の本より手軽に読めると思う。絵を見るだけでも十分に楽しめるものも多い。絵本を読んでみると、小さい頃のことを思い出し、なつかしい気持ちになれるだろう。また、絵本には様々な種類がある。そのため、ドキドキしたりすることもあれば、優しい気持ちになることもある。たかが絵本でも、奥が深いものだ。なんとなく絵本を手にしてみると、新たな発見があるかもしれない。

読　書

国文科2年　広田美穂

読書は限りなく想像力を必要とする個人的な体験だと思う。作者と一体となって本の中の人生を感じることができる。それはとても深い心の奥の表現であると思う。

最近、私は小説を書いた。それは国文科の学生の宿命ともいうべき課題である。原稿用紙10枚、この課題は私にとってとても勉強になるものだった。締め切りの3日前になっても書くべきテーマはまとまらない。まとまらないというより、ない。何もない。仮にも小説なので読む人に何かを感じてほしい。その思いが頭の中にあった。自分の経験を必死に思い出したが小説になるようなことがまるでない。トホホと思わずつぶやいてしまいそうになった。それでもやっとのことでテーマを見つけて書きはじめる。書けない、書けない、言葉がでてこない。つながらない。表現できない。私は自分の能力の無さに泣きたくなった。そして文章というものを創造できる人を心から尊敬した。私に読書を通じて感動を与えてくれた人は皆、天才だと思った。

自分で小説を書いてみてつくづくわかったことがある。本というものは体力と精神力がなければ書けないし、読めない。

中学生の頃に初めて大宰治の「人間失格」を読んだ。大宰治の自伝的といわれるこの作品を読み終えた時、ただ、私はとても疲れてしまっていた。そして何も言えなくなっていた。良いとも悪いとも思わなかった。ただ、心と体にずっしりとした重みを感じていた。人間失格、それは主人公が最後にたどりつく言葉。もの悲しく衝撃的な響きだった。この小説の主人公の半生は大宰治の心をそっくり映しとっているような気がした。そして私は彼の半生を2～3時間で読みとり生きていた。主人公と同調し、主人公がだす結論にうちのめされる。彼の心をとらえて疲れてしまうのは当然と言えるかもしれない。しかし、私はひきこまれるようにしてこの小説を読んだ。それだけの引力がこの小説にはあった。大宰治という作家が心血を注いで書いたものに違いない、そう思った。

今、私たちのまわりには本があふれている。図書館にはありとあらゆる本があり、家にもたくさん本がある。そして書店に行けば何枚かの百円玉で世界の名作、日本の名作を手にすることができるのだ。作家の目を通じて人生を感じる。完成された文章と向き合い、自分と向き合う。これはもしかしたら幸せなことなのかもしれないと私は思った。

本学の先生の近刊書

- たくましさを育てる子どもの遊び
  犬飼己紀子分担執筆
  ベンデグ桜隆社　2,200円
- 細川ガラシャのすべて
  長田真紀分担執筆
  新人物往来社　2,800円
- 信濃の一茶（中公新書）
  矢羽勝幸 著
  中央公論社　740円

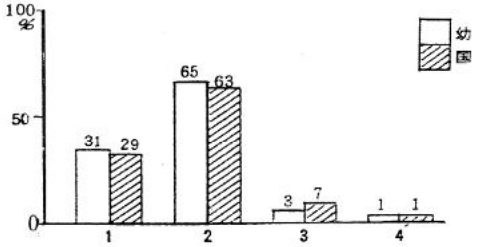
【図書館ガイド】

図書館レファレンスに関するアンケート

私たち司書は年数回、県内私立短大図書館の司書の方々と研究会を開いています。このアンケートはその研究会で利用者の生の姿をキャッチし、利用者を知ることでより明確な利用者援助をしていこうと企画・実施したものです。ここでは特にレファレンスサービスに関する設問の考察と皆さんからの意見・要望に対する答えを掲載します。

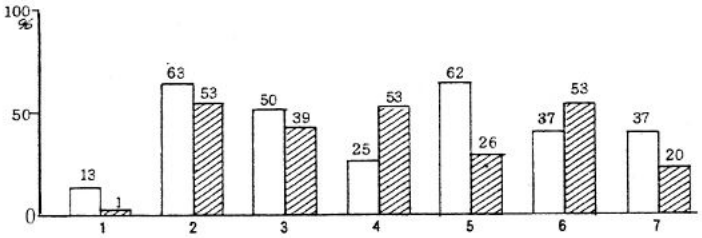
調査人員　幼児教育科　349名（78％）
　　国　文　科　180名（78％）

Q 1　図書館に資料を探しにきて、目的のものは見つかりましたか。



1. だいたい見つかった。
2. 見つかったり見つからなかったり
3. 見つからない場合が多い
4. 全く見つからない

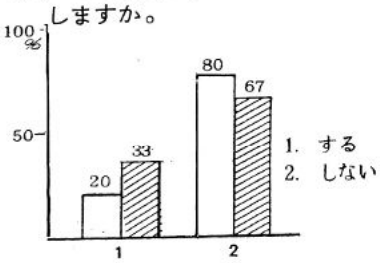
Q 2　Q 1で3. 4.を回答した方へ、お聞きします。見つからなかった場合あなたはどうしますか（複数回答有り）



1. 先生に相談する
2. 司書に相談する
3. 目についた他の本で調べる
4. 他の図書館へ行く
5. 友人に聞く
6. 本屋で探す
7. あきらめる

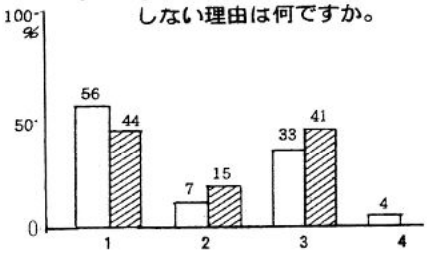
・見つからない場合あきらめる人が多いこと、先生に相談する人が少ないのが気にかかります。２年間という短い学生生活の中で様々な知識を学びとるため前向きな姿勢での学習を心掛けて下さい。

Q 3　本を探す時コンピュータを利用しますか。



1. する
2. しない

Q 4　Q 3 で２を回答した方へお聞きします。利用しない理由は何ですか。



1. 使い方がわからない
2. 使い方はわかるが面倒くさい
3. 自分で探すことができるから
4. その他

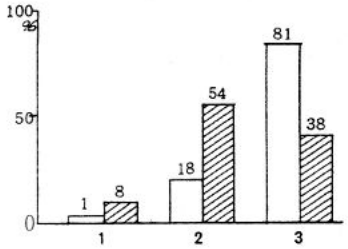
・９月より利用者専用の検索機が設置されました。本の所在や有無を調べるためには、検索機を使用することが一番手っとり早い方法です。気軽に利用して下さい。

Q 5　図書館を利用しない理由として該当するものを２つ以内で選んで下さい。（複数回答有り）

	幼	国
1. 利用しなくても学習に差し支えないから	14	なし
2. 読みたい資料は自分で購入するから	3	
3. 利用上の手続きが面倒そうだから	16	
4. 時間的余裕がないから	62	
5. 読書は好きではないから	8	
6. その他	9	

・利用しないと答えた学生はすべて幼教の１年生でした。図書館は情報の宝庫です。ぜひ、足を運んで下さい。

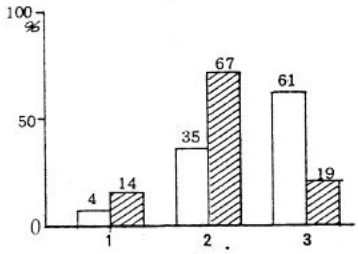
Q 6　本学図書館に所蔵していない資料を他の図書館から取り寄せたり、コピーを手に入れたりすることができるのを知っていますか。



1. 利用したことがある
2. 知っているが利用したことがない
3. 知らない

・どうしても図書館内で調べて解決できないものは、外部の図書館や機関に問い合わせコピー又は資料を取り寄せることができます。どうぞご利用下さい。

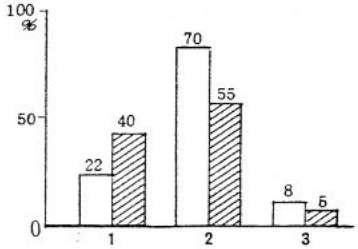
Q 7　あなたは図書館がレファレンスサービス（学習・調査・研究等のために資料や情報が必要な場合、司書が資料や情報を探したり提供したりするサービス）を行っているのを知っていますか。



1. 利用したことがある
2. 知っているが利用したことがない
3. 知らない

・図書館カウンターの本務はレファレンスサービスです。「こんなこと聞いたら……」なんて思わずに積極的に声をかけて下さい。

Q 8　入学してか図書館側から受けた利用指導はその後の図書館利用に役立ちましたか。



1. 役にたった
2. まあまあである
3. 役にたたなかった

・入学後のガイダンスは概ね好評のようですが、日常不明なことは遠慮なく尋ねて下さい。

Q 9　図書館に対する要望や意見がありましたらお書き下さい。

＊ 図書資料について

・本を増やしてほしい　15 人　・小説が少ない　13 人　・絵本を入れてほしい　10 人
・推理小説やコバルト文庫などもっと楽しく読める本を入れてほしい
・一般雑誌を入れてほしい　・参考図書をもっと入れてほしい

★図書館側ではイ．ベストセラーの本　ロ．書店店頭にある話題の本　ハ．各種賞の受賞本　ニ．参考図書等を網羅するよう努力していますが、大学図書館の蔵書とするには不適当なものもありますので個人購入をお願いします。

＊ 視聴覚資料について

・視聴覚資料をもっと増やしてほしい　35 人　・視聴覚資料のブースをもう少し増やしてほしい　・高校時代と違ってビデオを見れたり、CD が聞けてとてもうれしい　・ビデオを家に帰ってゆっくり見たい　・シングル CD も入れてほしい　・閲覧室と AV は別にしてほしい。

★視聴覚機器の増設、及び視聴スペースはこちらでも問題としていますので今後書庫の増築と合わせて検討していく考えです。

＊ 利用時間・貸出冊数について

・利用時間をもう少し長くしてほしい　・土曜日はPMまで開館してほしい　・長期休暇中もAMだけでもいいから利用したい　・貸出冊数を多くしてほしい。

★利用時間の延長についてはスタッフの問題もあり、今後の課題とします。冊数については多くの要望があれば検討します。

＊ 施設・設備について

・本棚を誰でも届く高さにしてほしい　・ロッカーの数を増やしてほしい。それが無理ならば荷物の持ち込みを可能にしてほしい　・イス、机が少ない。

★荷物の持ち込みについては紛失図書がある限りロッカーに入れる規則を守ってもらうしかありません。ブックデティクションシステムも検討していきたいと思います。

＊ その他

・貸出の時呼んでも出てこない時あり　・図書館の仕事はサービスだと思う。もっと貸りやすい環境を
・わからないことを聞くときちんと説明してもらえるのでありがたい　・面倒くさそうでやる気にならない
・司書が不親切と感じることがある

★司書に対する利用者の声を聞け、司書自身も自らを見つめ直す機会となりました。「聞き易い話しやすい司書」にと努力したいと思いますが、返却・貸出の際など一言も口をきかない学生が目に付きます。貸りたいのか、返したいのか、何を聞きたいのか自分自身の言葉ではっきりと表現してほしいと思います。又、私語の多さも気になります。他の利用者の妨げになりますので注意して下さい。

——おわりに——

利用者援助を成功に導くための1つのポイントは、レポート・試験・卒業論文あるいは教育実習など毎年同時期にくりかえされているものに対する情報要求の時期を把握し、それに対して最適な情報を提供すること。もう一つは、先生方との連携にあると思います。先生方が図書館に目を向けているかどうかが図書館利用に大きく影響します。そのために図書館側も先生方に信頼される資料の構築や、迅速なサービスを通じて信頼度を深めていくよう努力したいと考えています。又、学生の皆さんの声を聞いてもっと利用者サイドにたったサービスの必要性を感じました。サービスを向上することによって学生との間に信頼関係も生まれレファレンスも増加する。そこから私達図書館員にもプライドが生まれより高いサービスをと求めるようになります。大学での利用者教育は日本の図書館全体の水準を上げる基礎となります。生涯学習を見据えて大学図書館司書はその使命を果たしていかなければなりません。一年々の積み重ねにおごることなく、新たな気持ちで学生を迎え図書館を充分に理解し使いこなしてもらえるよう努力していきたいと思います。最後にアンケートに御協力いただいた皆さんに心よりお礼申し上げます。

（久保田）

編　集　後　記

昨年20周年を期に改題2号目の館報をお届けします。資料の機械検索態勢拡充と参考業務についてお知らせし、ますますのご利用とご支援をお願いします。「あなたへの一冊」として、先生方から学生諸姉にすすめる「一冊の本」のシリーズを始めました。ご期待ください。お忙しい中を玉稿を賜りました方々に厚くお礼申し上げます。（山口）

みすず 上田女子短期大学附属図書館報
第 21 号
1994.12　発行

編集　上田女子短期大学図書委員会
発行　上田女子短期大学附属図書館

〒386－12
長野県上田市下之郷620
TEL 0268－38－2352